

成人向け  
R18



この物この物語はフィクションであり、  
実在の人物・団体・名称等は架空のもので  
実際の事件や団体とは一切関係ありません。  
本作の登場人物はすべて18歳以上（成人）です。

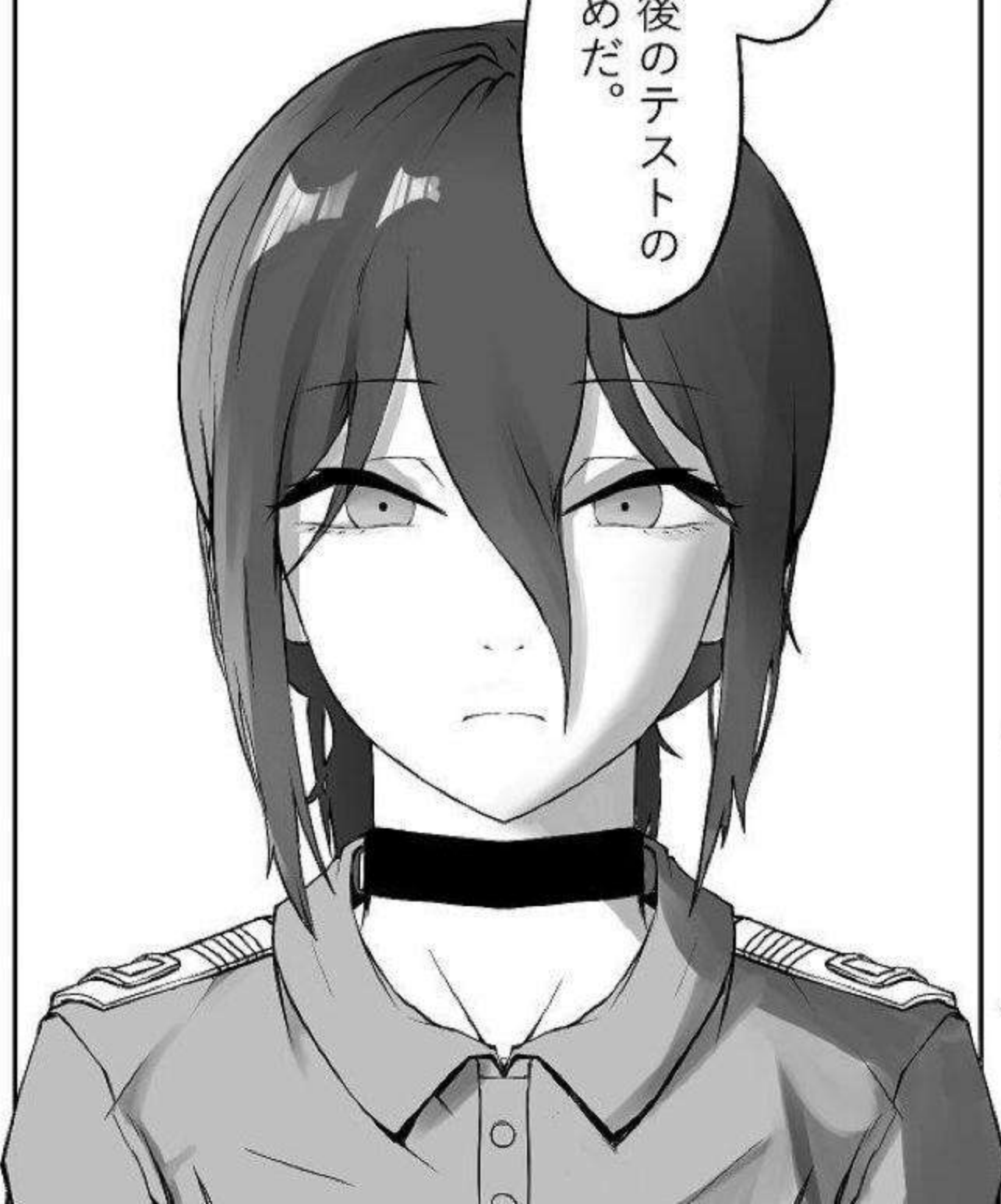
チェンソーマン



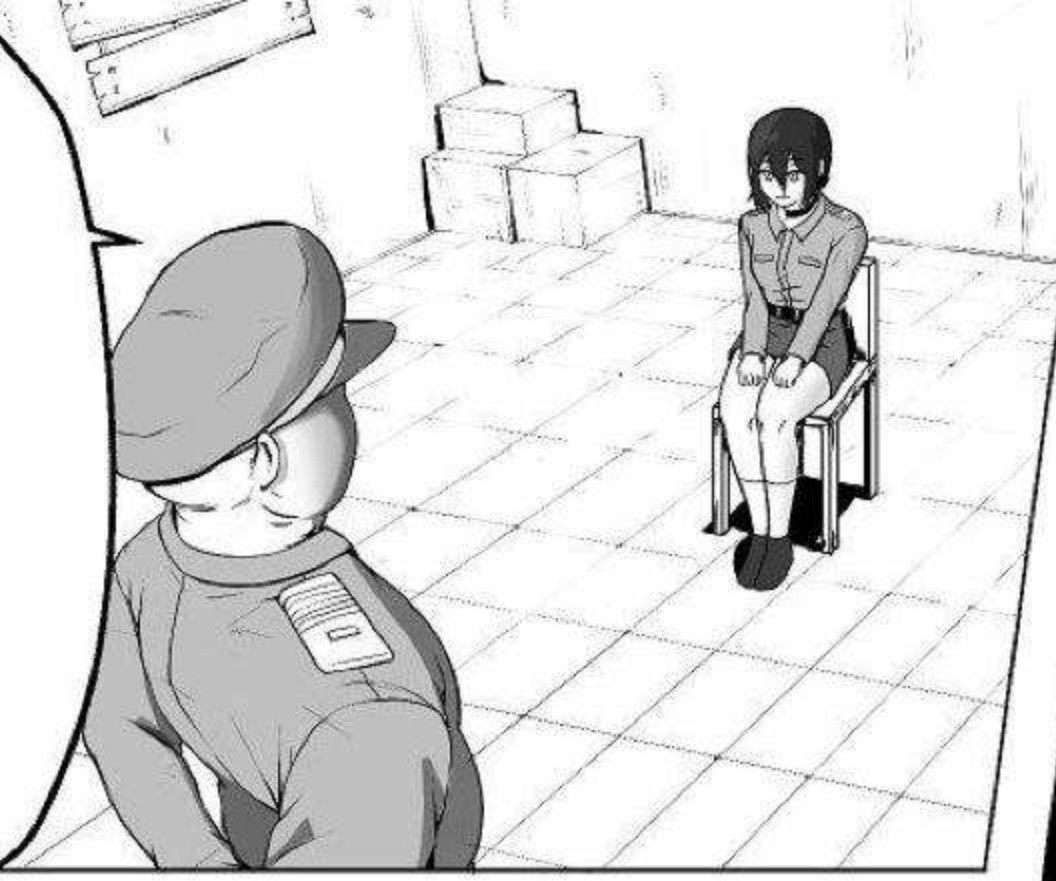
分かっているな？

君を呼んだのは、

最後のテストの  
ためだ。



ソ連の実験体  
(モルモット)。



君もよく  
分かっているだろうが…



最後の教育に  
なる予定だ。

忠実なソ連  
人民。



ドキ…

ドキ…

彼女の体には、爆  
弾の悪魔の心臓が  
移植されている。



…

理解しました。

今回は  
誰を相手にすれ  
ばよろしいので  
しょうか？



誰かじゃない。

ガモ

ア



今回の教育者たちは、ソ連の偉大な同志たちだ。

スパイであり、優秀な愛国者であるレゼなら、やり遂げられるだろう。

そんな話は、聞いたことが...

祖国の仕事に疑問を抱くモルモットの末路が

どうなるかは分かっているだろうか？

おお、君が優秀な革命同志のレゼか。

噂は聞いていて、よく知っているよ。

顔立ちもなかなか整っている人な。

誠心誠意、教育に臨むように。

さて、では.....教育を始めよう。

ス  
ッ



さあ…

早く!

ユドジン



ちゅ

そう…  
最後だ。



えっ

最後……



おお?!ずいぶん積極的だな?

脱いだほうが、  
教育も盛り上がる  
だろう。

こんな邪魔な服は、  
さっさと脱ごう。

ずぼん

そうそう。実に立派だ。  
僕だけを見てくれるなんて、  
光栄だよ。

ぬぽっ

ぬぽっ

ぬぽっ

でも、他の同志たちが  
嫉妬しないかな？

でも、他の同志たちが  
嫉妬しちゃうかも  
しれないよ？

他の同志たちも  
寂しくないように、  
ちよっと手を  
貸してやれ。

あ…

スシ

…!?

もつとだ、  
情熱的に！

アッ



ギョッ

モルモットなら、  
モルモットらしく...

もっと学ぶ  
意欲を見せろ！

あっ！

くぼっ

くぼっ

くぼっ

くぼっ

くぼっ

くぼっ

そうだ。ようやく  
感覚が掴めてきたな！

手は  
止めるな！

ふやふや

そろそろ  
出すぞ！

ふやふや

ふやふや





ソ連の  
モルモットが  
もう疲れたのか？

まさか！  
レゼ同志がやめたいと  
いうなら、いくらでも  
受け入れてやるさ。

代わりに、『他の』  
モルモットたちに  
教育を始めさせるとしよう。

ククッ

...

この愚かなアソコに  
立派な教育を  
施してください。

私の...

はあ

はあ

他の子たちに  
教育を受ける機会を  
奪わせたくないんです...

はあ

パッ♡

はあ

そこまで言うなら、  
仕方ないな。



やめてー!

最初は少し  
ゆっくり!

痛い!

ぬ  
ぶ  
っ

うるさい……

ぬ  
ぶ  
っ

ぬ  
ぶ  
っ

レゼ一人じゃ  
手に余るみたいだな。

他の  
モルモットも  
呼んでみるか?

やっと  
静かになったな!  
実験ネズミの  
くせに!

おとなしく  
口を閉じて、  
気分のいい声でも  
出してろ!

グ  
ウ  
ッ  
ッ





もう少し  
大きな声で  
鳴いてみる。

いい  
表情だな。



よし、そろそろ  
出そうだ!

お願い、  
やめて!

心配するな。  
後で墮ろさせて  
やるから!



子供でも  
できたら任務に  
支障が出る!

やだっ!





こういう時は、  
なんて言うべきだと  
教わった？

フッ〜

レゼ？

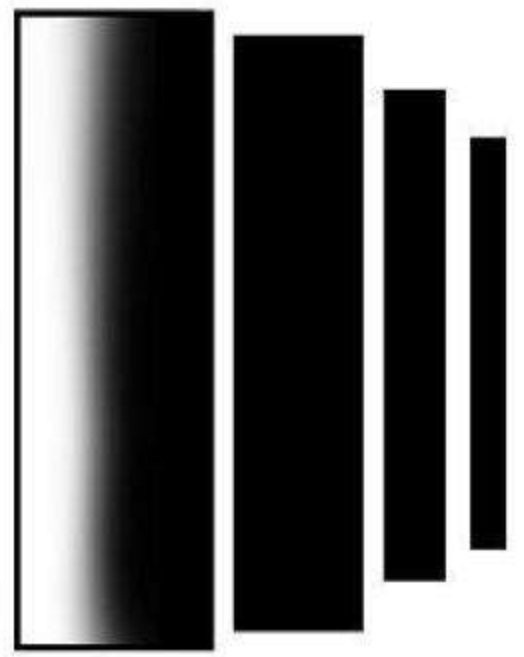
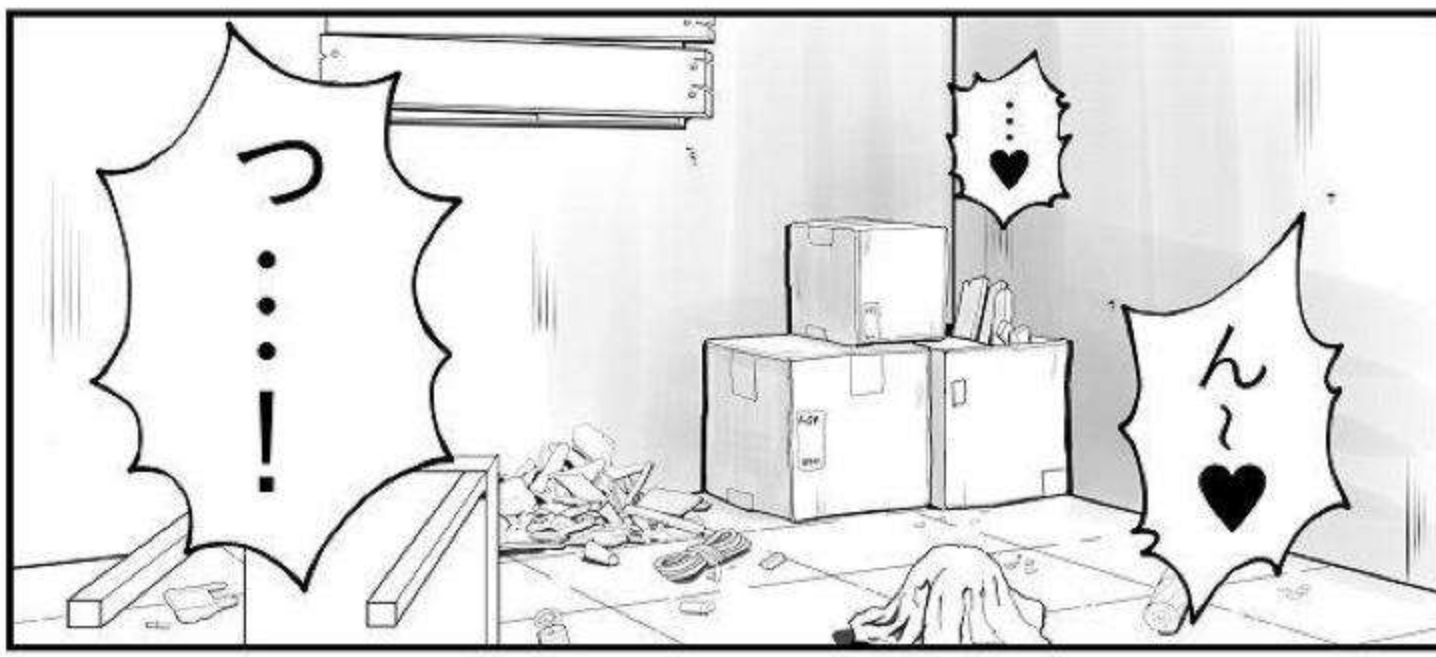
ま……  
まだ……

まだ足りません。♥

足りない  
モルモットに、

補習の教育を  
ください。

ヌ  
ル  
ン





肩で息をしながら、いきそうになってるじゃねえか？



違う…。私は、嫌がってるんだ…！



違う。私はただ、他のモルモツトたちのために、仕方なく…！



確かに…



無理やり…



















ふう……  
楽しかったな。

もう少し、  
気持ちよくなりた……



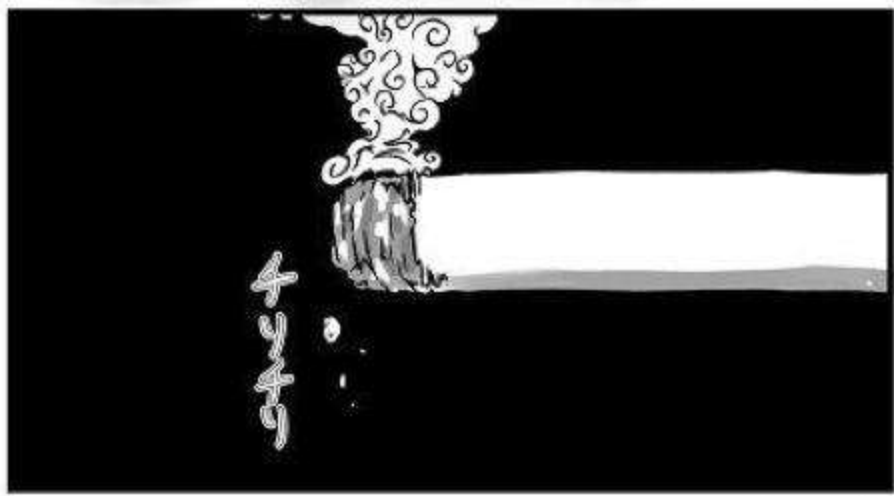
それにしても  
驚きました。

あのモルモットが、  
あんなに下品に  
尻を振るとは。

もし正気を失って  
安全ピンを  
引いていたら、  
我々は全滅でしたかね。

カチッ

そんなはずは  
ありません。



一生苦しんできた  
モルモットにとって、  
快樂は甘い罠ですから。

我々が使いながら、  
十分に開発してきた  
ではありませんか？

それは  
そうだな。

ところで、  
聞きましたか？

あのモルモットを  
日本へスパイとして  
送るそうですよ。

そうか？

残念がるかと  
思いましたが。

俺が？



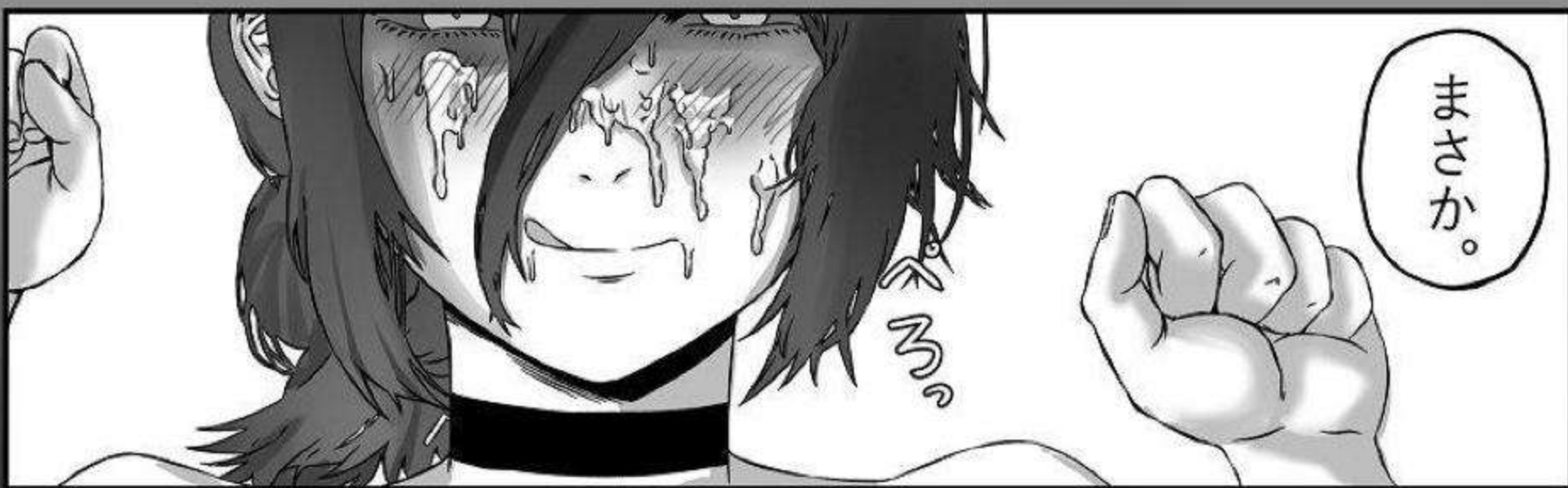
あまりに突きすぎて  
ガバガバになった  
玩具を、  
俺がどうして気にする？



それでも、  
よく使っていたから  
大事にしているのかと  
思いましたが？



まさか。



ガバガバになった  
オナホールを  
気にする人間が  
どこにいる？



完